

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年9月24日
第34号

羽球支部新人戦

山田瑠菜さん準優勝

目標は団体で全道出場

9月14日からバドミントンの高体連後志支部新人戦大会が余市総体で開催され、山田瑠菜さん（1-3）がシングルスで準優勝、個人戦で4名が3回戦まで進む活躍を見せた。チーム全体の意識が変わり、「目標は団体で全道出場を」と前向きだ。山田瑠菜さん、堀るみさん、渡辺莉央さんに聞いた。



バドミントン部の皆さんと外部コーチ、行廣先生

体力つけて次こそ優勝を
山田瑠菜さん（1-3）、上写真前列中央）は今大会で岩内（1年）、潮陵（2年）、潮陵（2年）、倶知安（2年）未来創造（2年）と1日に5回試合をして、準優勝となった。「準決勝と決勝の相手は前大会と同じだった。優勝を目指していたので悔しかった。でも前よりも

横田杯に手応え バレー部春高選手権に挑む

9月14日から帯広市でバレーボールの横田杯が開催され、本校は予選リーグで白樺、北見緑陵、帯広柏葉と対戦し、2勝1敗で決勝Tに進んだが、北見柏陽に1-2で敗退した。その後、参加校と交流戦も行われた。

実力の差は縮められたと思う。この大会に向けて下半身を筋トレで鍛えてきた。成果はあったが、試合が続いてバテてしまったので、もっと体力をつける必要を感じている」という。
目標ができ意識変わった
堀るみさん・渡辺莉央さん（2-4）のダブルスは寿都に勝ち、倶知安に敗れた。「倶知

森あずささん（3-2）は「先月のリーグ戦はポロボロだったので、春高選手権予選を控えて焦りを感じていた。横田杯では少しずつチームの勝ち方や課題が見えてきた。10月5日に地区予選、11月に全道大会があり、

安のペアは強かったが、勝てる相手でもあった。後半のサーブミスが悔やまれる」と堀さん。「試合では焦らず、ミスを減らし、もっと声をかけあい、お見合いを減らしたい」と渡辺さん。目標が団体で全道出場となり、チームの意識が変わってきた。外部コーチの指導もありがたい。山田さんの活躍も刺激になる。

3年生は引退となる。それまで色々な相手と戦い、経験を積み、勝ちを意識して、最後に悔いのないように、全道ベスト8を目指したい」と語る。
横田杯では準決勝、決勝で格上のチームの試合を観戦し、勉強になったという。「そこに近づけるように」意識を向ける。

ヒロシマから平和を伝える 3-2 坂井優友



広島原爆ドーム、核兵器の惨禍と平和の大切さを伝える。



原爆の恐ろしさに触れ、核廃絶を願う コープさっぽろ平和スタディツアーに参加して

この夏、コープさっぽろ平和スタディツアー（左写真）に参加し、広島で核兵器の恐ろしさに触れ、平和への思いを新たにしました。坂井優友さんに

話を聞いた。

平和活動に感動

ユースフォーラム・虹の広場
社会人や大学生が取り組む平和活動に触れることができました。2030年までに核兵器禁止条約批准を求め、核兵器をなくす日本キャンペーン（NGO）を母体にした団体がオンラインでプレゼンをしたり、地元の学生によるダンス、被爆者の実体験を絵で伝える高校生生の発表（次ページ）、



被爆者の八幡照子さんの証言。被爆の瞬間の轟音、突風、直後の地獄のような惨状を聞いた。



被爆者の体験を絵で伝える美術部員の高校生たち



平和の大切さをダンスで伝える高校生たち



放射能を浴び皮膚癌を発症した人

資料館には原爆で亡くなった人の書いた日記や手紙、原子爆弾リトルボーイの模型などを見て、原爆の恐ろしさを身近に感じる事ができました。家族を待ちながら亡くなった小学生の手紙には心を揺さぶられました。広島では14万人の人が亡くなったにもかかわらず、今も核実験が行われているのが不思議でたまりません。



平和祈念資料館(左写真) 日記・手紙は今も語る

被爆者の八幡照子さんの証言を聞き、たった一つの核兵器でも人類は滅亡に向かうこと、戦争が起こると人は被害者だけでなく、加害者にもなることがわかりました。今回のツアーで学んだことを一人でも多くの人に伝えることが大切だと感じました。



平和への誓いを朗読する広島の小学生。岸田首相も挨拶した。

8時15分、参加者全員で犠牲者に黙祷を捧げました。岸田総理、各国大使も参列し、原爆の危険性と平和の大切さが世界中に広がりを見せているのが一目でわかりました。しかし、式典

平和記念式典 パレスチナを招待せず



最後の核実験から83日。

核実験を目撃させられた人 上の写真は核実験を目撃させられ、皮膚癌を発症した住民のものです。全身の皮膚が腫れて、皮膚とは思えないほどになっているのがわかります。ここまでして核実験を行う意味が私にはわかりませんが、この事実を多くの人に知ってもらいたいと思います。

末政貞子さんの被爆証言 聞く人の心を動かした

式典後に末政貞子さん(下写真)のお話を伺いました。小学生で被爆した体験を紙芝居

に招待されず、不参加の国もありました。右は式典に参列した国のリストです。長崎では式典にイスラエルを招待しなかったことで問題が発生したことがメディアで広く取り上げられていましたが、広島ではパレスチナが招待されず、日本に抗議文を送っています。一筋縄では解決できない問題であることがわかります。世界平和のために、このような問題が世界中にあることを理解し、一つ一つ丁寧に解決していく必要があると感じました。



を通過して語ってくれました。硝子の破片が足の裏に刺さり、痛みを耐え

- タジキスタン共和国
タンザニア連合共和国
チュコ共和国
チュニジア共和国
チリ共和国
デンマーク王国
ドミニック共和国
ドミニカ共和国
トルクメニスタン共和国
トンガ王国
ナミビア共和国
ニカラガ共和国
ニュージーランド
ネパール
ノルウェー王国
バーレーン王国
バングラ
バハマ共和国
バハマニューギニア独立国
パラオ共和国
パラグアイ共和国
バングラデシュ人民共和国
東ティモール民主共和国
フィリピン共和国
フィンランド共和国
ブチン民主共和国
フランス共和国
ブルキナファソ
ベネズエラ
ボリバル共和国
ベルギー王国
ポーランド共和国
ボスニア・ヘルツェゴビナ
ボリビア多民族国
ボツワナ共和国
モザンビーク共和国
モルドバ共和国
モロッコ王国
ラオス人民民主共和国
リトアニア共和国
リビア
リベリア共和国
ルーマニア
ルワンダ共和国
レソト王国
欧州連合代表部